

公開シンポジウム『図書館への期待—患者・家族が病気と治療について学ぶために』第23回医学情報サービス研究大会千葉大会(2006/7/16)

「からだ情報館」での取組み ～医学図書館/患者図書館の立場から

東京女子医科大学図書館 桑原 文子

内容

1. 「からだ情報館」開設の理由
2. スタッフとその活動内容
3. 利用状況～統計より
4. 「からだ情報館」からの情報発信
5. レファレンスについて
6. 「からだ情報館」設置の反響とメリット
7. 今後の課題と展望

1. 「からだ情報館」の開設理由

患者本位の医療を実現するため、
患者サービスを充実させるような、
新しい施設を作ろう！

東京女子医科大学の100周年記念事業として、外来部門を統合した総合外来センターを建設 → その1階に設置（2002年12月建設開始）

2003年6月 『からだ情報館』 開館



「医療情報収集の場を提供、
患者が自分で勉強する場所」
利用対象：患者/家族/面会者/地域住民まで

～理念実現上、大切なこと…

- ・ 利用者のための**快適な環境**
 - 備品は出来るだけ木製に、明るく広い空間
 - 車椅子に対応したカウンター、書架
- ・ 最新の**医学/医療情報**の準備
 - 医学図書館での経験を生かした蔵書構成
 - IT機器を利用した設備を用意する
- ・ 当院の**診療内容**が分かる**情報**の充実
 - 患者さんの疑問に答える資料を備える

～運営上、大切なこと…

• **スタッフ**の充実

→医療従事者(看護師)1名 司書1名

• **運営委員会** の設置

→既設の準備委員会が移行、図書館参加

• 継続的な**運営費**の確保

• **資料**の管理と充実

→医学図書館と同一の業務管理システム導入

→利用者のニーズへの対応





カウンター・閲覧机・インターネット端末



ビデオ・図書・雑誌・女子医大関連施設資料
(300本) (約1500冊) (25誌) BDSタグ貼付 バーコード貼付



2. スタッフとその活動内容

図書館司書はマネジメント全般を担当

所蔵資料・パンフレット用意、レファレンス（情報提供）、
「からだ情報館」運営委員会事務局、各種委員会出席

看護師は医療面での専門を生かす

医療に関する相談/具体的アドバイス、資料/インターネット検索援助、当館企画の講演会準備

ボランティアは各自の得意分野で活躍

パンフレット配架、機器の使い方、上述の講演会参加

3.利用状況～統計より

入館者数：133人/日

インターネット利用者数：20人/

ビデオ視聴件数：3人/日

相談件数*：7人/日

～2005年度統計～

*レファレンス記録一覧表作成

4.「からだ情報館」の情報発信

『ビデオ講演会』の実施

- ・ビデオ『医ココロジ-*』からテーマ選択
- ・一周年記念として第1回2004年7月31日開催
- ・講演会は年4回継続的開催を計画

*当院医師の出演による医学講座シリーズ
(2003年にテレビ東京にて放映済み) 全26回

プラスティネーション展示も企画

テーマ『タバコと肺の病気～それでも貴方は吸いますか?』

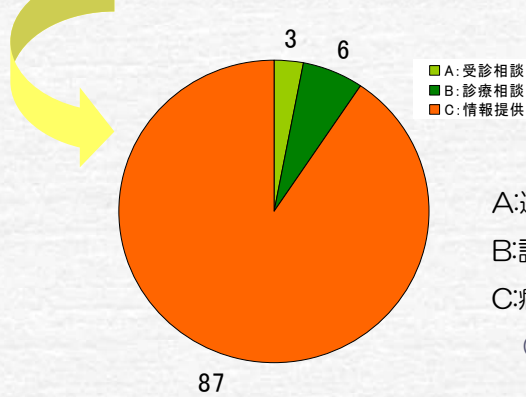


第8回「からだ情報館」ビデオ講演会

(2006/6/24)

5. レファレンスについて

医学/医療情報の提供



A:適切な診療科選択/他部門連携

B:診療上の悩み相談

C:病気等の資料提示/検索

(2006/5 96件)

例1 <不妊治療の可能年齢>

Q：何歳位まで妊娠可能だろうか？ 調べられる資料がほしい

A：不妊関連の図書を紹介、閲覧

『看護のための最新医学講座第16巻:婦人科疾患』他

◎長く産婦人科担当であった看護師に連絡
不妊治療の現状を説明、受診勧める

例2 <多発性硬化症の治療>

Q：多発性硬化症の薬物治療は副作用が強い、他に方法はあるのだろうか

(他院で多発性硬化症の疑いありと言われ、セカンドオピニオンを希望して来院)

A：患者会作成の図書も含め、関連図書を紹介

『多発性硬化症完全ブック 第2版 (MSキャビン発行)』他

◎難病センターHPや当院医師が世話人を務める患者会等、**多角的に資料を紹介**

例3 <ガンマナイフ治療>

Q: ガンマナイフ治療の実際について、
詳しく知りたい

A: 当院医師が作成した、ガンマナイフ治療に
関する小冊子、説明ビデオを紹介

『ガンマナイフ一問一答集』 『ガンマナイフ論文集』

◎更なる資料として、雑誌の別冊号も用意

『Radiosurgery の最前線(別冊医学のあゆみ)』

6. 「からだ情報館」設置の

反響とメリット

患者さん、ご家族にとって

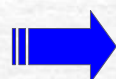
様々な医学/医療情報を得ることが出来る
診療や療養に対する心配、不安の相談の場
病院の中の有益な“居場所”、オアシス

大学、病院にとって

- 医療職/患者の**コミュニケーション**に有効
- 病気への理解 ⇒ 治療に効果的
- 外来での**患者サービス**の可能性を開拓
- 学生/研修医 ⇒ 患者理解への参考
- 病院のPR ⇒ 病院に対する理解を深める
- 大学/病院の地域社会への貢献

図書館、館員にとって

- **レファレンス**の原点（多様性 切実性）
- 医学図書館と患者図書室の**連携/協力**
⇒ 医学情報資源と検索技術の**活用**
- 図書館の**活性化**（社会に繋がる図書館）
- 図書館の**市民/地域公開**への一回答



病院に必ずほしい患者図書
室！

7. 今後の課題と展望

- ・ 組織上の問題

院内での位置付け強化（規程や組織図の整備）
PCC、看護部との連携強化

- ・ “場” の活用を進める

患者向け **広報の場** として活用（院内での更なるPR）
地域に向けて、様々な **情報発信** の工夫（Nextビデオ講演会）

- ・ 資料について

わかりやすい医学専門書 の充実・更新
多様な患者向け医療情報 の紹介
院内の情報 を積極的に収集・公開
医学/医療 **データベース** の充実を切望

女子医大マスコットの
ジョシーです。See you!



ご清聴ありがとうございました。